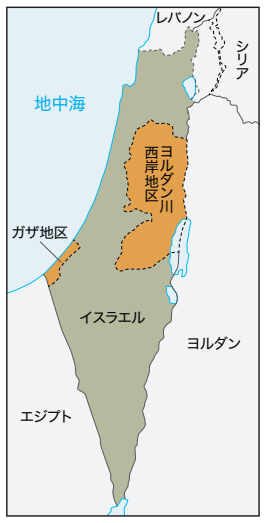
パレスチナ・ガザ地区、ヨルダン川西岸地区 救援カンパにご協力をお願いします

中東の地に恒久の平和を
パレスチナの戦火が熄むことを
心から願います

私たちは、共生と平和は一つであって、二つではないと考えています。平和は暴力や戦争のないこと、共生はそこに向かう人間の営みです。そう考えたとき人は、戦争は起きるものだ、無くなることはないと諦めるのではなく、戦争を無くすために努力し、その責任を引きうけることができます。その営みは日常にも非日常にもあります。

ウクライナでの戦火が終わらないなか、イスラエルとパレスチナの地にふたたび戦争の状況が起きてしまいました。そして、ここでも、ほんとうにたくさんの子どもたち、人びとが生命を奪われつづけています。私たちは、世界中のすべての人びとともに、暴力や戦争で人が人を殺すことも、人が人に殺されることも絶対にあってはいけないと訴え、それが、すべての国家の為政者たちと、あらゆる民族や集団の指導者たちの心に届いていくことを心から願います。中東の地に恒久の平和を願います。ウクライナに恒久の平和を、人間の社会に恒久の平和を願います。

組合員の皆さん、パレスチナの人びとへの支援のためのカンパを募ります。下記の注文番号でお届けください。お預かりしたカンパは、パレスチナの人びとへの直接の支援にかならず役立たせていただきます。



共生の時代
みどりの地球を
みどりのままで
号　外

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒８１２－８５６１
福岡市博多区博多駅前一丁目５番１号
博多大博通ビルディング３階
ＴＥＬ０９２（４８１）７９２３
ＦＡＸ０９２（４８１）７８７６
https://www.greencoop.or.jp/

グリーンコープが連帯する団体から支援の呼びかけが届けられました

ATJからパレスチナ・ガザ地区、ヨルダン川西岸地区 救援カンパのお願い

10月7日に始まったハマスとイスラエル軍の武力衝突は双方の市民に多数の犠牲者を出しています。とりわけパレスチナ・ガザ地区では、逃げ場のない市民に対する連日の空爆で死者14,800人以上、負傷者35,000人近く（11月23日現在）にのぼっています。食料、水、電気、燃料、医薬品が絶対的に不足し、220万の人口のうち170万人が避難生活を強いられています。

こうした事態を受けて、パレスチナのオリーブオイルの2つの出荷団体、アル・リーフ社（Al Reef）（PARCのフェアトレード事業会社）、及びUAWCでは、封鎖が解除され次第、ガザ地区の人びとに対する物資の緊急支援、中期的には爆撃によって破壊された農地や農業施設の復興支援を行う準備を進めており、日本にも支援の要請が届きました。

オリーブの産地であるヨルダン川西岸地区でも入植者やイスラエル軍の暴力行為による死者は211人（11月23日現在）にのぼっており、強制立ち退きの事例も多数報告されています。中でもイスラエルの軍事支配下に置かれており、オリーブ生産者のほとんどが住むエリアCでこうした事件が頻発しています。そのため、UAWCでは西岸地区で避難生活を送る農民や遊牧民に対する住居やテント、住宅資材の提供も行います。

PARC、UAWCから送られてきた緊急アピールを受けて、APF、ATJ及びAPLA[※2]ではパレスチナの人びとへの心からの連帯を込めて、両団体の活動を支援するため募金を呼びかけます。できる限りのご協力をお願い申し上げます。

※1 民衆交易を基盤にした南の民衆と北の市民の連帯・交流のネットワーク。南の人びとの経済的自立を支援するため、低利で資金を融資している

※2 アジアの人々の「農業を軸とした地域づくり」のためのネットワーク構築を目指して、出会いや交流の場の創造を進めるNPO法人

ATJ（㈱オルター・トレード・ジャパン）
エコシュリンプやバナナ、パレスチナのオリーブオイルなどの「民衆交易」を行う会社。グリーンコープをはじめとする生協などの団体が出資して1989年に設立した。いのち、暮らし、自然を守る食べものの交易を通して生産者の自立、そして生産者と消費者が相互に支え合う関係を目指している。

PARC（パレスチナ農業復興委員会）
パレスチナで農業復興に取り組んでいる。グリーンコープでは、PARCが生産するオリーブオイルが原料の「パレスチナのエキストラ・バージンオリーブオイル」を取り扱っている。

UAWC（パレスチナ農業開発センター）
パレスチナで農業復興に取り組んでいる。グリーンコープでは、UAWCが生産するオリーブオイルが原料のせっけんやギフト用エキストラ・バージン・オリーブオイルを取り扱っている。

アル・リーフ社及びUAWCが行う支援活動

1．ガザ地区
- 食料や水、医薬品や乳児用ミルク、テントや衣類などの支援物資の提供
- 建設資材の提供
- 破壊された農地や農業施設、灌漑施設の復旧

2．ヨルダン川西岸地区
- 避難民への住居やテント、住宅資材、生活必需品の提供
- 土地を差し押さえられた人びとへの法的支援

パレスチナ・ガザ地区、ヨルダン川西岸地区 救援カンパ

カタログ42号でカンパを受け付けます
受付期間：12月18日（月）～22日（金）

お届けいただいたカンパ金は、ATJをとおしてPARC及びUAWCにお届けします。また、特定非営利活動法人パルシックにも届け、現地の人々の支援に活用されます。

パレスチナ・ガザ地区 救援カンパ

010	011
一口200円	一口500円

共同購入申込書の申込番号の数量欄に、カンパする口数をご記入ください。お一人何口でも申し込めます。
※【例】申込番号010の数量を「2」と記入・入力された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

アル・リーフ社からの報告

パレスチナのガザ地区では現在、イスラエル占領軍による大規模な大量虐殺、民族浄化が行われています。大惨事は10月7日に始まり、イスラエル軍の爆撃と空爆の激しさは急速に増しており、ガザ地区全域に大規模な破壊を引き起こしています。水、電気、食料、燃料、そして基本的な生活必需品の深刻な不足を緩和するために必要な人道的・医療的援助を遮断するというイスラエル占領軍の決定により、ガザ地区の住民は、死に直面し、人道的危機に苦しんでいます。ガザ地区はすでに17年間、イスラエルによる完全封鎖状態にあり、戦争が宣言されて以来、この包囲は非常に厳しくなっています。

大量虐殺が始まって以来、イスラエルの戦闘機は14,200戸の住居が入る5,500棟の建物を完全に破壊しました。さらに、約133,000戸の住居が部分的に損壊し、内10,127戸が居住不能となりました。イスラエル占領軍は、医療施設、学校、モスク、教会、道路、パン屋、水汲み場、海水淡水化プラントなどを標的にし、近隣地域全体を一掃し、さまざまな都市、村、難民キャンプなど多数の地域が灰燼に帰しました。そのため、何十万人ものガザ地区の人びとが家を失いました。

占領軍はガザ地区全域で多数の虐殺を行っていますが、最大かつ最も残忍なものはパレスチナ市民約1,000人（そのほとんどが子ども）が命を落とした10月17日のバプテスト病院爆撃です。この虐殺によって医師、看護師、ジャーナリスト、救急隊員、民間防衛の救助隊員、子ども、赤ん坊、幼児、胎児、10代の若者、成人女性・男性が亡くなりました。また、取り壊された建物の瓦礫の下に閉じ込められたパレスチナ人の行方不明者は約1,400人で、そのうち700人は子どもでした。さらに約140万人のガザ地区の人びとが、止むことのないイスラエル軍の砲撃によって家を追われ、現在、学校や病院、教会に避難しています。イスラエルの占領下で行われている戦争犯罪は、戦時下における民間人を保護する人道法と国際法に違反しています。


救援物資を配布


飲料水を配布

（2023年10月22日）

UAWCからの報告

最近の戦争の惨禍によって、ガザは打ちのめされ、傷つき、人道的大惨事の瀬戸際に立たされています。このメッセージを書いている今、全住民が圧倒的な損失、痛み、破壊と闘っています。猛攻撃から2週間以上が経過し、現状は恐るべきものとなっています。イスラエルの攻撃は、基本的なコミュニティ・インフラだけでなく、生計手段の核心をも標的にしています。住民の生命線であるガザ地区の農業セクターの大部分が脅威にさらされています。何千人もの農民が、自分の畑や農地へのアクセスを妨げられています。ガザ地区の現在のニーズを満たすのに欠かせない1万トン以上の果物や2万5000トン以上の野菜が人びとの手に届かない状況です。飢えが市民に対する武器として使われていることは明らかです。

ガザ市在住でUAWCのスタッフでもあるバシールは、爆撃のためにガザ地区南部に避難しました。彼は子どもたちに必要なものを与えるのに苦労しています。清潔な水を手に入れることができず、限られた汚染された水を使っています。水を節約するため、トイレに行くのは1日1回に制限しています。主食であるパンがないため、米で代用し、パンを欲しがる子どもたちをなだめようとしています。食料が不足しているため、1日1食を用意するのがやっとなのです。

人類のために、この大量虐殺はやめなければいけません。戦争犯罪人は責任を問われなければならないし、この長期にわたる占領は終わらせる必要があります。他のすべての人間と同じように、ガザの人々は尊厳と自由と平和のある生活を切望しています。

ヨルダン川西岸地区でも、大惨事が起きています。イスラエル人入植者と軍は、ヨルダン川西岸の各地、特に「エリアC」に分類される地域で、破壊的な攻撃を仕掛けています。ガザに対する残忍な攻撃に乗じて、入植者たちはエリアCで民族浄化作戦を実施しています。現在までに、この地域全体で約90人のパレスチナ人が死亡し、1,100人以上が負傷しました。さらに、100世帯以上がエリアCの家と土地から強制的に立ち退きさせられました。入植者たちは家屋、テント、家畜小屋を破壊し、燃やし、財産を略奪しています。数日前にサイル村で起きた事件では、入植者が畜産農家を襲い、住民を家から追い出し、その後占拠し、約300頭の家畜を盗みました。現在、エリアCの土地が白昼堂々と奪われています。エリアCはヨルダン川西岸地区全体の面積の60％以上を占め、30万人以上のパレスチナ人が住んでいます。


緊急支援物資を準備



ヨルダン川西岸地区地図
灰色の部分がエリアC、入植地やイスラエル軍演習地が集中している

（2023年10月25日）

パルシックから支援協力の呼びかけ

いま爆撃が続くガザ地区は、面積でいうと種子島ほどの小さな地域に230万人が住む人口密集地です。2007年以降イスラエルに軍事封鎖され、「天井のない監獄」と呼ばれてきました。人びとはガザ地区の外に自由に出ることを禁じられ、物流も制限され、慢性的な困窮状態におかれてきたのです。イスラエルからの武力攻撃も、過去に何度も起こりました。

今回の戦争が始まり、水、食料、燃料、通信などのインフラもイスラエルによって遮断され、深刻な人道危機に陥っています。イスラエル軍は、ガザ北部の住民に南部への退避を勧告しましたが、退避路周辺も、南部地域も激しい空爆を受けています。パルシックのガザ事務所のスタッフは「これは戦争ではなく虐殺です。警告なしで住民の頭上に爆弾が投下される。ガザの中で安全な場所はどこにもありません」と悲痛な叫びをあげます。

2014年のイスラエルによるガザ侵攻後に、パルシックはガザ地区での被災者緊急支援を実施しました。そして2018年からは、ガザの人びとが人間らしい自立的な生活を送れるように、酪農・畜産農家を対象に生計支援を行ってきました。そこには羊の飼育を学びながら乳製品を生産して家族の生活を支える女性たちがいるのです。

私たちはこうしたパレスチナの人びとが生き延びていてくれることを祈る一方、停戦によって活動が可能になれば、被災家族への緊急支援を開始します。直ちに支援物資を送れるよう準備を進めています。

それとともに、今回の戦争の背景として、パレスチナの人たちが長い間イスラエル占領下で日常的な暴力や人権侵害を受け続け、土地を奪われてきたということに、私たちはきちんと向き合う必要があると考えます。一般市民を多く巻き込む暴力の連鎖を止めるには高度に政治的な解決が必要ではありますが、政治を動かすのは私たち市民であるはずです。関心を持つことは大切な一歩でしょう。パルシックはこれからイスラエル・パレスチナ問題を学ぶ連続講座も企画します。皆さんと共に何ができるかを考えながら、国際社会に対して市民連帯の声を上げていきたいと思っています。パレスチナの人たちが、自由で尊厳ある普通の生活を手にすることができるまで、その状況に関心を持ち続けてくださるようお願いいたします。

（2023年11月15日時点）

特定非営利活動法人パルシック
国際協力とフェアトレードを主な活動内容とする。パレスチナのガザ地区で緊急支援と生活再建支援、ヨルダン川西岸地区で循環型社会をつくるための支援を行っている。

